

新年おめでとうございます

本会も創立以来まる三年が経過し、所期の目的を達成すべく順調に推移しております。会報やセミナーも予定どおり発行・開催致しております。[セミナー]は皆様のご協力を得て、特長あるこの会独特の“じっくり討議しあえる場”に育ちつつあるのではないかと考えております。

[ワーキング・グループ]2]は10名ちかくのメンバーにより、1年以上の時間をかけて『プラスチック材料と環境問題』について“深く静かにそして真摯に”討議されており、その成果が期待されています。

さらに、会員有志で構成され、特定のテーマについて絞り込みをおこなう[分科集会]は理事も含めて熱心に討議され、第1回・第3回は小野昌朗講師による『自動車関連問題』について、第2回・第4回は中山弘章講師による『エネルギー関連問題』について熱のこもった討議がなされました。会を重ねるごとに活発になっております。

上記と狙いをやや異にする[紹介講演会](加藤功講師、吉川英夫講師)も実施しましたが、今後がますます楽しみです。

また第1回[見学会]は『東海大学情報技術センター』で多数のご参加を戴いて実施され、特に近未来の地球環境問題について参加者一同、大いに啓発され、感銘を受けました。

さて現在では多数の生物が住んでいる星は地球だけと考えられています。地球は約40億年の歳月を費やし、大気・水・土・緑のバランスのもとに生命が育てられる環境を作りあげてまいりました。生命の中で最も誕生の新しい人間が、今まで大きな動物では例のない50億人もの種を増やし、さらにあと僅か100年後には100億人を超える恐れもあります。その人間が地球を破壊し続けています。この環境破壊を止めないかぎり恐竜の例のように、地球上で人間が生存できない環境になってしまうかも知れないのです。

恐竜は1億5千万年も地球の支配者だったのですが、6千万年前に死滅してしまいました。これは何等かの原因により、恐竜が生存できない地球環境になったためであり、人類が地球に誕生して僅か2百万年にしかならないのに、人間自ら地球環境を悪化させ、まだ30億年は生存できる地球であるのに、ここに住んでいる人類および一部の共生物は数百年先の生存も保障できない環境になっているのです。これから何千万年も何億年も生存できる対策を究明し、それを着実に実施していかなければなりません。

本年の目標

1. 3ケ年が経過したいま、各行事を初心に戻って見直し、より一層の充実を図ります。
2. 環境問題は自然科学・社会科学・人文科学・工学などと深い関わりが在りますので、広い視野での対応を行います。
3. 『もの』と『こころ』の豊かな在り方を求めます。

そこで、本会としては次のような事が必要になります。

- ①会員の増強； 本会のさらなる発展のために、全会員のご協力を戴いて、各分野に亙る会員の拡大・増強を図ります。
- ②広報活動の徹底； 対内・対外活動の拡大と活性化を強化します。

本年も皆様方のご指導・ご鞭撻によりまして、なお一層活性化されたHEARTの会(Humn Environment Activating Research Team)に向けて努力していきたいと存じます。

おわりに会員の皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念申し上げます。